

プロトタイピングとロードマッピングを併用したスマートグラスの普及時期予測と参入方式検討

所属 : SSE01-03 名前 : 小澤敏道

予測・検討における問題点

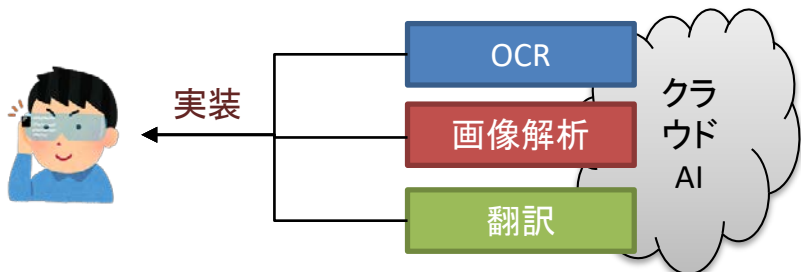
- 下記を系統的, 網羅的に分析する必要がある
1. マーケット: スマートグラスが必要とされるユースケース(提供価値)と社会的背景
 2. 製品・サービス: 「デバイス自体」, 「提供されるサービス」, 「ビジネスモデル」
 3. 技術: 物理・通信~情報処理~アプリケーションに至る, 各技術レイヤーの最新動向

手法・ツールの適用による解決

ロードマッピングでの予測に加え, 早期にプロトタイピングによる実機への機能実装と, デザイン思考による想定ユースケースを用いて実際の使用感を確かめることで, ロードマップ上での現在の立ち位置を明確化すると共に, Forecast/Backcastをより精緻に, 定量的に行うことを可能とした

プロトタイピング

- 市販のスマートグラスと, クラウドAPIで提供されているAIエンジンを組み合わせ, 機能実装

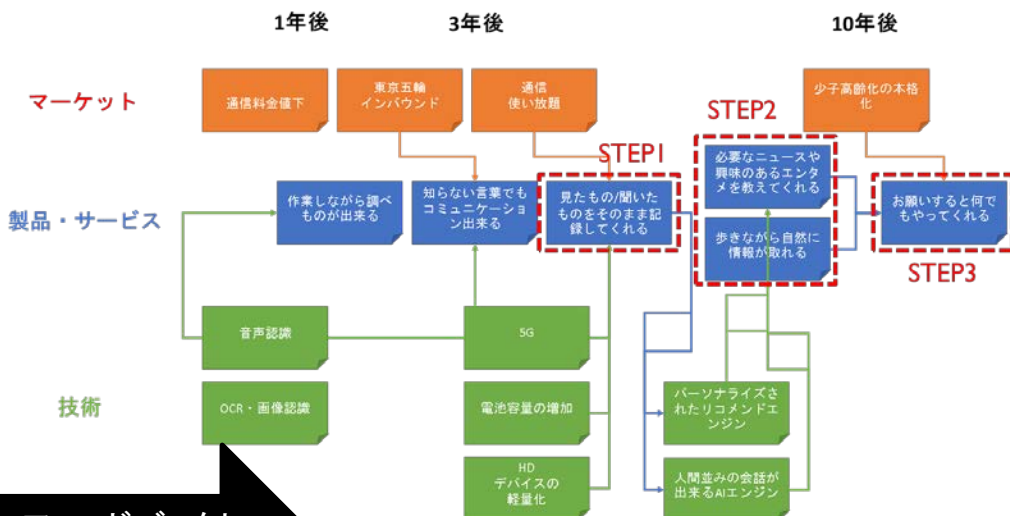


- 想定ユースケース(一例)でUI/UXを確認



ロードマッピング

- 1. マーケット, 2. 製品・サービス, 3. 技術の各観点から, 普及時期予測と参入方式検討を実施



相互にフィードバックし, ブラッシュアップ

- 予測・検討の初期段階でプロトタイピングを実施
- 既存のデバイスとAI技術で「今, 出来ること」を早期に確認
- 実際に「動くもの」で試すことで, 企画・開発者自らがお客さま体験をトレースし, 製品・サービス化に向けた課題・不足を実感
- その後のロードマッピングにおいて, 特に以下の点の精緻化・定量化に活用
 - ① 既存技術の限界と必要な技術進化の幅把握
 - ② 単体技術の限界把握と組み合わせが必要な他の技術要素の抽出

